

令和３年度 第１回 花巻市博物館協議会会議録

1 開催日時

令和３年７月２９日 午後１時３０分～午後２時５０分

2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

3 出席者

(1) 委員８名

佐藤由紀男委員（会長）、浅沼昭男委員、梅木康行委員、沼田弘二委員、中島健次委員、畠山義範委員、平野榮一委員、大原皓二委員

(2) 事務局（博物館）５名

佐藤勝教育長、高橋信雄館長、佐藤恒副館長、小原一明管理係長、小原伸博学芸係長

4 議事

(1) 令和２年度博物館事業報告について

(2) 令和３年度博物館事業計画について

(3) その他

（佐藤恒副館長）

時間となりましたので令和３年度第１回花巻市博物館協議会を開催いたします。私、今年の４月より副館長をしております佐藤恒といいます。よろしくお願いいたします。今年度、令和３年度につきましては委員の皆様は２年目となりますので引き続きお願いいたします。お一方人事異動に伴いまして今年度から委員をお願いすることになりました学校教育関係者として石鳥谷中学校の沼田弘二様でございます。よろしくお願いいたします。辞令書につきましてはコロナ対策ということであらかじめ机の上に置かせていただいておりますのでご了承いただきたいと思います。次に本会議でございますが、委員の半数以上になります８名の方に出席いただいておりますので博物館管理運営規則第１０条第２項の規定におきまして成立することをここにご報告させていただきます。それでは始めに花巻市教育長佐藤勝よりご挨拶させていただきます。

（佐藤勝教育長）

本日は大変暑い中、そしてお忙しいところ皆様方にはご出席いただきましてありがとうございます。また任期が令和４年６月３０日までということでございますが、あらためまして委員の皆様には引続き委員としてご指導をよろしくお願いいたします。そして、新たに委員となられました沼田先生にはよろしくお願いいたします。この博物館協議会のご案内のようにお資料の収集、保管、展示に関する調査研究あるいは運営全般に関しご意見を

伺うものでございます。本日は令和 2 年度の事業報告、そして今年度の事業計画についてご意見をいただき、ご助言をたまわれればと思います。新型コロナウイルス感染症によって事業の変更がございました。それに伴って入館者の方が少なかったということでございますけど、なんとかそれでも予定を変更しながらやるべきとことを頑張ってやってきてというような状況です。これは市内の隣にある宮沢賢治記念館をはじめ、どの施設も同じなわけですけど、いずれ文化施設のガイドラインに沿いながら、やるべきことはやってきた。ただ企画したものをどうするかということもございましたけれども、あらためて事業計画を見直して、本日のこのパンフレットにございますような形で特別展、テーマ展、こういったものを現存頑張ってもらっているところでございます。様々ご来館してくださる方もおいでいますし、大変ありがたいことだと思います。数日前に蓮がさいたということで新聞にも取り上げられまして、それは良いなということで見に来たら終わっていたということで大変残念なのですが、平泉由来の平和の象徴の蓮、是非なんとか増えてほしいなと思っている次第です。ただ、いつまでもコロナのせいにはしてられないので、こういう時だからこそサービスが必要だとか、こういうことをもっと重点的にやったらとか、色々な発想とかもあるかと思いますが、そんなこんなことも含めまして、色々ご専門の立場から忌憚のないご意見を承ればありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

（佐藤恒副館長）

それではこれより議事に入らせていただきます。議長は規則第 9 条第 2 項の規定によりまして、当協議会の会長であります岩手大学教育学部教授佐藤由紀夫様にお願いいたします。

（佐藤由紀男会長）

会長の佐藤由紀男でございます。よろしくお願いいたします。新しく委員になられた方がいらっしゃると思いますので、改めて博物館法を確認させていただいております。今回は 19 ページに博物館法の第 20 条が掲載されていますので、ご覧いただければと思います。博物館協議会につきましては、博物館法の第 20 条で公立博物館に博物館協議会を置くことができると規定されております。置かなければいけないものではありませんけれど、置くことが望ましいということですね。公立博物館というのは公立、都道府県市町村立の博物館の中で県教育委員会の博物館登録原本に登録されている博物館を指しております。したがって名前が博物館でもすべてが公立博物館というわけではございません。そのへんもご承知いただきたいと思います。登録にはいくつか規定がありまして博物館法等をごらんいただければと思います。そして、博物館協議会は運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とするということです。つまり、ここで何かを決めなければならないというところではなくて、ご意見をいただくのが目的でありますのでそれぞれ忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。では議事に入ります。

議事（１）令和２年度博物館事業報告について、事務局 小原学芸係長及び小原管理係長より説明）

（佐藤由紀男会長）

ありがとうございました。昨年度はコロナの関係で変更や入館者の減少があったのですが、ただいまの説明に対しましてご質問ですとかご意見をお願いいたします。

（大原皓二委員）

希望というか要望も含めての意見になるんですけど、昨年２月に博物館に展示をしました花巻人形収集資料選この展示を拝見しまして、あんなにも数の多さ種類の多さにほんとうに驚きました。展示の仕方につきましてもガラス一面に横いっぱい並んでいるのを壮観さ、ほんとうにびっくりするんですが、それを踏まえての要望なのですが、花巻市博物館では常設展示でなんとか考えていただけないか。あれだけの規模の展示をすれば全国一、どなたもびっくりなさるんでしょうが、あの様な展示方法に近い形で展示方法を常設展示することは花巻人形の素晴らしさというものを、常時全国から来たお客様にご覧いただけるのではないかと。花巻に行ったら「あの人形を見なさい、びっくりするよ」という意味合いでの要望というか希望ですか、花巻の自慢ですか是非したいものだなと、意見も含めて申し上げます。

（小原伸博学芸係長）

ありがとうございます。そういった要望はじつはございまして、一部ですが今常設展示では10点ほど花巻人形や美術工芸のコーナーを設けまして展示しています。もっと花巻人形は種類が多いということですので、それが特徴ですのもっと展示できるようなスペースをとりながら常設展示に花巻人形を展示していきたいと思います。

（平野榮一委員）

毎回お願いやら質問やらを同じことを言っておりますが、東和ふるさと歴史資料館所蔵資料の調査・整理・及び研究についてお尋ねしたいと思います。そこに書いてありますように、本来当館の収集対象でない民俗資料や剥製などの資料に作業は難航を極めたと書いてあります。大変だったと私も見ていて大変だったんだろうと想像しますが、この資料収集対象になっていないものについてはどうなされたのか、ということが質問でございます。それから質問の２つ目は、これで整理のほうは全部終わったのでしょうか、まだ継続中なんでしょうかというところが２点目です。

（小原伸博学芸係長）

民俗資料につきましては、田瀬振興センターに民俗資料を保管してあります。暗幕など張り

まして状態をそのまま維持出来るような保管にしておりました。我々も民俗の専門がいまないので、こういった資料がどういうふうに活用されるかが分からなくてそういったことに難航しましたが、台帳などと突き合わせながら整理をいたしました。2点目のご質問ですが、こちらは整理が終わりまして歴史資料と民俗資料、美術工芸など、田瀬振興センター、成島振興センターに保管しております。

(梅木康行委員)

いつも出前授業をやっていただいてありがとうございます。もっと使うように言っているのですがなかなか学校は他にも平泉の世界遺産の授業があったり、色々ありましてなかなか効果的に6年生の歴史で使えなくて、もっと使いたいなと私は思っているところでございます。担任に帰ったらまた伝えようと思っています。7ページです。講座のそれぞれの地域特性を盛り込んだ学習メニューを作成し、とございますが、もし今分かるのであれば一つ教えていただければと思います。それから去年は岩手県内に修学旅行の見学先を県内にする学校がほとんどで、修学旅行の対応が13回となっていますが、何処の学校が来たのかもよろしければ教えていただければと思います。

(小原伸博学芸係長)

地域性を盛り込んだ学習メニューということでしたけども、縄文時代の暮らしで言えば、矢沢小学校では上台Ⅰ遺跡、久田野遺跡が矢沢地区にありますので、この出土したものをお見せしたり、矢沢小学校は遺跡の上に建っているということを講座で教えたり、湯口小学校では多田等観が湯口との関わりがありますので、湯口小学校、中学校で等観についての講座などをやりました。花巻小学校では花巻城が建っていましたので、戦国時代と合わせての勉強をしております。そしてフィールドワークで実際に街を歩いて花巻城に関わるお寺やそういったものを取り入れた授業をやりました。修学旅行についてですが、盛岡や秋田、青森の八戸とかそういった所から多く見学にいらっしゃいました。

(佐藤由紀男会長)

3ページ目の質問です。寄託資料が昨年度入っております。博物館に詳しくないと中々寄託ということを承知しない委員の方もいらっしゃるかとしれませんが、寄贈でもなく、借用でもない、寄託というのは、所有権はその方に残したまま博物館でお預かりする、でも借用でもなく、その後資料の使用については博物館の資料と同じように扱うということです。調査研究、貸出等ですね、博物館の意図でおこなうのが通例でありますけども、寄託がここに入ってくるのは、私の記憶ではしばらくなかったといえますか、いつあったか覚えていないのですが、かなり久しぶりだと思います。寄託とはある意味イレギュラーな収集の方針だと思います。というのは寄託をおこなうものの主な理由というのは、例えば寺が無人になってしまってそこで持っていた文化財がそのままだと盗難にあってしまうのでお預かりする、

同じように神社の御神体が極めて貴重な神だということがわかって、盗難の可能性があるので一時的に、お祀りする以外はお預かりする、個人の場合には何かの事情で十分な保管が出来なくなったから保管すると思うんですけど、この場合には特に下の 2 つがなんでこれが寄託なのかと思った部分がありまして、どんな理由で寄託になったのかをお伺いしたいと思います。

（小原伸博学芸係長）

先ほど佐藤会長が仰ったとおり、色々な理由で寄贈より寄託にしたいという方がおり、お預かりしたのになります。理由の一つとしては、家で管理しきれなくて所有はしていきたいけども環境が良いところに預けたいということがあります。

（佐藤由紀男会長）

今後の計画としてはこうした寄託されたものについても博物館側としてこの資料を寄託ではなくて自分の資料として持っていきたいということならば購入交渉ですとか寄贈していただく交渉ですとかそういうことをするのが通例だと思うんですけど、そうした点はどのように考えていますでしょうか。

（小原伸博学芸係長）

今後ですが、寄託更新の際に、寄託を更新するか否かを確認する通知を出していますが、その際に寄贈したいという方もいます。いずれ寄贈はするかもしれないと言われているので、そういった交渉はしていきたいと思います。

（佐藤由紀男会長）

もう一つ伺いたいのが、寄託については最も博物館資料としてはトラブルが多いのは、学芸員の方々は承知のことだと思うのですが、この契約書は開館当時に契約書を作ってそれを今でも使われていることと、その契約書を作る時に少なくとも花巻市の法務部門や総務部の中にあると思うのですが、大きな整理室なんかですと法務の専門の方がいらっしゃいますけど、そこでしっかり見ていただく、場合によっては弁護士に見てもらうことが寄託の契約書については必要ということで、そのようにしている所もございますが、契約内容については、見直しはされていますでしょうか。

（小原伸博学芸係長）

当館では契約書ではなくて、契約書は交わさずに一文だけで状態など安全な資料保管に努めますとだけです。契約書などは交わしていません。

（佐藤由紀男会長）

契約について一度検討された方が良いかと思います。最近では特に相続の関係で大きなトラブルになっていますし、この場合はこうして公開をしていますけど公開をしていない博物館で相続の時にそれが相続税の対象にならなくてあとで税務調査が入ったということも承知をしておりますので、寄託については一度契約をどうするか、その辺一度検討された方がよろしいかと思います。

(小原伸博学芸係長)

検討してみます。

(佐藤由紀男会長)

議事の(1)は終了いたします。

議事の(2)、令和3年度博物館事業計画について事務局から説明をお願いいたします。

議事(2) 令和3年度博物館事業計画について、事務局 小原学芸係長及び小原管理係長より説明)

(佐藤由紀男会長)

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、ご質問やご意見はございますか。

(中島健次委員)

特に令和3年度事業にこだわらないですが、今ホットな話題として、北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録というニュースがありましたが、当花巻でもそういう場所が、規模は別としてあると思うのですが、盛り上がったのというか、わりと地味な分野が脚光を浴びたということで花巻に関連付けた企画などはあるのか、あるいはですね、市民もせっかく世界遺産登録と関連付けたかたちで理解が深まるのではないかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

大迫の文化財センターで今、縄文展を開催しています。

(中島健次委員)

深い質問ではないのですが、そういう大きなニュースに関連付けた花巻地方の縄文遺跡という部分も関連遺跡を含めて皆にPRするする場があってもいいのではないかという思いです。

(小原伸博学芸係長)

失礼いたしました。博物館の方でもそういった盛り上がり我便乗いたしましたして事業を考えていきたいと思ひます。それで今大迫の文化財センターでは縄文展を開催していますのでそちらの方でもご覧いただければと思ひます。

(佐藤勝教育長)

花巻にも大変な遺跡が沢山あって、ただ埋蔵文化財中心にした施設は大迫の総合文化財センターの部分なのですが、そこで今、市内の遺跡から出た物を中心にした縄文展をやっているのですが、宣伝の仕方を工夫して、もっと宣伝をするようにしますし、でも連携したかたちでやっていくのが間違いなく良いと思ひます。

(浅沼昭男委員)

災害を取り上げた企画展を 2 月から行うということで、災害のどのような内容を取り上げて企画するとか、あるいは東北と比較して、どのような範囲で考察するのか内容をお伺ひします。

(小原伸博学芸係長)

令和 4 年 2 月開催予定の災害展ですが、こちらは昨年度、東日本大震災 10 年目ということで本来は開催予定でしたがコロナウイルス感染症のため延期して、今年度 2 月に開催するものになります。展示内容ですが、福島からの資料をお借りしたり、近世の古文書なども借りたり、山形の上杉博物館からお借りしたり、あとは秋田の資料館等からもお借りして、近世から現代の災害がありましたが、人々が立ち向かったそういった内容を紹介して、災害に理解を深めようといった展示になっております。

(浅沼昭男委員)

非常に災害が多くなっていて、非常に注目されるのではないかなと思ひるので、例えば土砂災害とか台風とか色々な災害があると思ひますけど、注目される題材で開催していただければいいのではないかなと思ひましてお聞きしました。

(小原伸博学芸係長)

皆さんが注目出来るような展示を目指しております。是非その際はご覧になっていただければと思ひます。

(平野榮一委員)

先ほどの質問に関わりますけど、東和ふるさと歴史資料館の 15 ページでございます。先ほどの質問で、資料は田瀬中学校、成島振興センターの方に移動していると聞き取りましたが、まだふるさと歴史資料館には資料は残っているのですか。休館中ということのようでホー

ムページを見ると、この 15 ページを見ると警備の委託料 80 万弱の年間これくらいかかっているのはもったいないと思います。

（畠山義範委員）

話はかわりますが、嶋二郎さんが 3 年かけて清水の研究をしました。その後、花巻で展開していないので博物館でそれを掘り下げながら花巻の歴史と繋がりそして長さの、石鳥谷にある土仏観世音を花巻でも掘り下げて花巻でも取上げてほしいのですが。

（小原一明管理係長）

初めに平野委員の質問の件ですが、東和ふるさと歴史資料館の事業費が 791 千円かかっているのですが、まだ建物が残っていて休館中ということで、機械警備の委託や消防設備点検の委託、敷地内の草刈り作業などどうしても管理運営費がかかってしまいます。休館中ですが事業費として予算を計上しております。

（佐藤勝教育長）

ご存じのように昔の東和病院で結局危ない建物なのです。ですから壊してしまえばという話なのですが壊すにも相当な経費がかかりますし、病院跡地ですので汚染の問題とかありますが、危険な建物をそのままの状況にしてはおけないことは認識していますし、もしその中に入られて例えば事故なんかおきた場合、とても心配だと、今のような警備だとか保守管理をこの金額でやっています。いずれ将来的にどうなるかは検討に入っているかと思いますがその状況になりましたら、またお知らせいたします。嶋二郎さん清水研究は亡くなられた先生のお手伝いをいただきながら、ずっと長くやっていて清水寺研究会というかたちでやっておられて、一つの成果を出しました。もっともっと掘下げていかなければならないでしょうし、古代の関係ではまだ手も上がっていない状況で、県立博物館の関係もあったと思いますがいずれ学芸の方で調査研究対象となった場合、また色々とお願ひすると思います。

（浅沼昭男委員）

15 ページの展示活動事業の先進視察という項目がありまして新たな調査を始めるためのものか、続きのものか、新たなものがあるのであればお聞かせください。

（小原伸博学芸係長）

展示活動事業費の中の先進視察旅費、そして調査旅費ですが、こちらは斎藤宗次郎の関係で遺族の方が京都にいますのでそちらに行きまして聞き取り調査や資料を寄贈していただくことでの費用となっております。

(大原皓二委員)

今年度の光ミュージアム所蔵美を競う肉筆浮世絵の世界を見せていただき、大変素晴らしい展示でした。ちなみに、ここの展示活動事業費の中に織り込まれているんだと思いますが、どれくらいの費用がかかるのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

開催委託費で 400 万くらいの経費がかかっております。講師謝礼や印刷費を含めると 500 万くらいかかっております。

(佐藤由紀男会長)

私の記憶ですと花巻市博物館が開館して今年が 17 年目になるかと思います。多くの博物館が 20 年くらいで常設展の展示替えを計画されているところが多いかと考えております。なかなか 20 年の時に実施できなくて 25 年になっているところもございますが、何年したらやらなければいけないわけではないのですが、花巻市の場合開館当時にくらべれば地域も変わっていますし、そろそろ年度計画の中にはお金がかかるので載ってこないとは思いますが、常設展の展示替えを意識して調査研究ですとか今後の流れですとか方針ですとか、そのあたりを意識する時期になってきていますが、いかがでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

20 周年に向けまして常設展のリニューアルなどは考えて行きたいとは思っていますが、経費の問題もありますので、出来るところから常設の 1 市 3 町を含めた常設展示のリニューアルを考えて、大々的にリニューアルするというような流れを今のところ考えております。

(佐藤由紀男会長)

是非、進めていただければと思います。

議事の (2) を終了させていただきます。議事の (3) のその他に入らせていただきます。

委員の皆さま及び事務局から何かありましたら発言をお願いします。

事務局はよろしいですか、委員の方からもないようですので、これもちまして議事を終了いたします。ご協力をいただきましてありがとうございました。以後の進行は事務局にお戻しいたします。

(佐藤恒副館長)

佐藤会長ありがとうございました。それでは次第の方ですが 4 のその他に移ります。皆様から何かありますでしょうか。

なければ事務局から一点ご報告をさせていただきたいと思います。当協議会の委員でございます浅沼昭男様、今日は欠席されております佐々木さつき様ですが協議会の在職年数が

10 年以上ということで、このたび花巻市から感謝状を贈呈することになりました。感謝状は 8 月末の予定でございますが、これまでに改めて感謝を申し上げるとともに、今後も引き続きお願いしたいと思います。以上、報告でございます。

それでは次第の 5、閉会となります。花巻市博物館館長高橋信雄より閉会のご挨拶をさせていただきます。

（高橋信雄館長）

大変貴重なご意見をありがとうございます。この意見を十分に生かすよう私も一生懸命これから頑張りたいと思っております。これで少し話に出なかった点をご紹介したいと思うのですが、じつは花巻城の御城印をこの博物館で発行しております。去年の 8 月から発行してもう 1600 枚も出たという、これ一つは南部藩のお城めぐりというシリーズで、花巻城だけでなく南部の城を知ってもらうようなこともありまして、さまざまな機関と博物館とが協議して始めたものでございます。それともう一つ、今やっております奥羽仕置の再仕置の展示でございますが、これも福島県立博物館、栃木県立博物館、山形大学博物館、もちろん盛岡や二戸の九戸城とか様々な機関を連携という、これはつい最近博物館がそれぞれの所で奥羽仕置に関しましても、うちの博物館はうちの博物館なりの奥羽仕置 430 年を記念しての展示になっていますし、それぞれの博物館が奥羽仕置に対してどう対処したか、それぞれの所で展示をやっている、今までの連携のあり方をもう一度見直しながらそれぞれの機関が連携するという、そういうことにもうちの博物館がかなり中心的な役割を果たしながら今やっている状態ですので、これを含めてですね、もっと様々な機関と連携していけたらいいなと思っていますので、様々な面からご支援いただければと思います。勝さんの方からハスの話が出ましたけれども、ハスの件も実は平泉文化遺産センターが平泉にあります、あそこが発掘調査をして大池という初期の平泉の寺院の伽藍があったところの発掘調査をしてちょうど秀衡の時期の層からハスの種が残っていて、いわゆる中尊寺ハスと言われるものは泰衡の棺桶に入ったものを増やしていったものなのですが、大池ハスは大池という寺院の跡の池から出たものを中島さんに花を咲かせてもらって、それを株分けしてもらったというような経緯があります。しかも、このすぐそばに高松経塚という所から平泉の時期には白磁四耳壺、白磁がすごく平泉を特徴づけるものです。このすぐそばに経塚から出ていて、うちでも今展示してあるものです。平泉の文化センターと花巻市博物館は非常に関係が深いそういうのも含めて様々な機関と連携していけるようなことを今後続けていきたいというように思っています。様々なご指導をいただければありがたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

（佐藤恒副館長）

皆さまありがとうございました。この後、現在開催しているテーマ展「鉄道と花巻－近代のクロスロード－」とミニ展示の奥州仕置展を皆さまにご案内したいと思います。お時間可能

な方は是非ご覧いただきたいと思います。本日はありがとうございました。